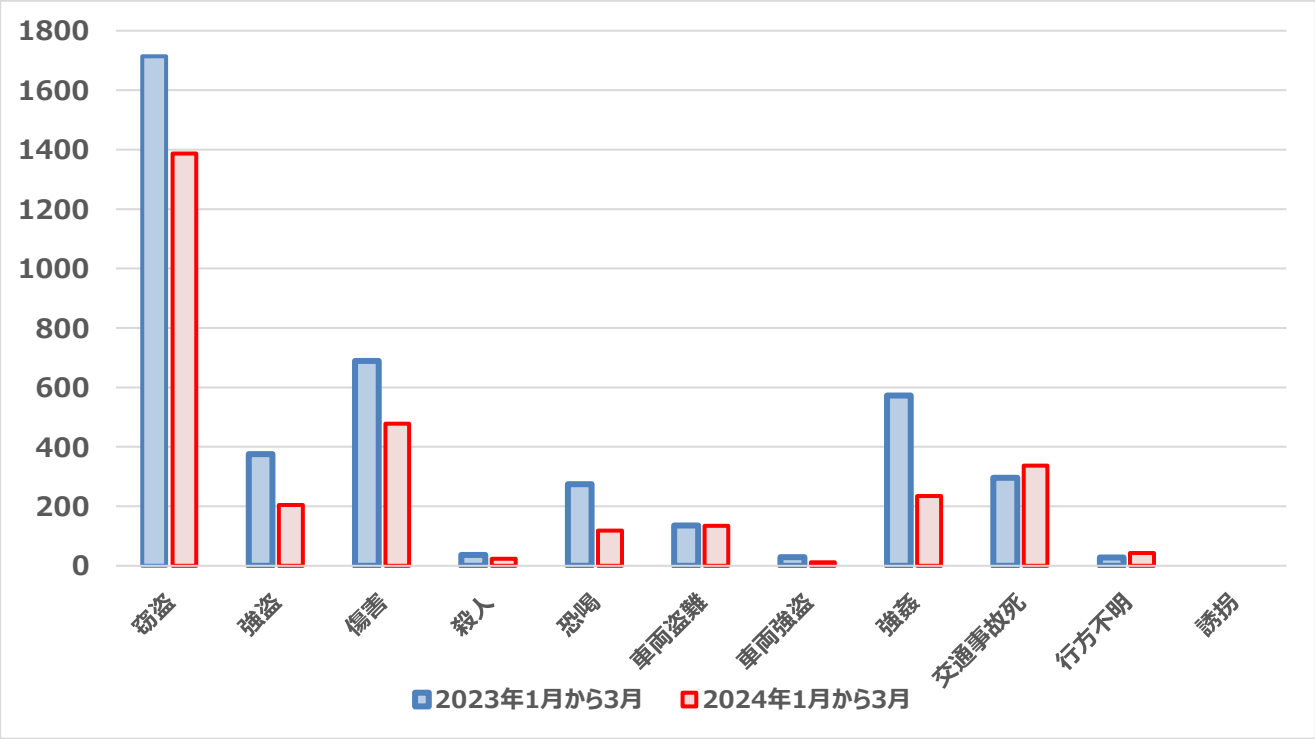
## 海外安全対策情報

１． 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

2024 年 1 月から 3 月におけるエルサルバドル国内での犯罪統計は以下のとおりです。

| | 2023 年 1 月から 3 月 | 2024 年 1 月から 3 月 | 前年差 |
|---|---|---|---|
| 窃盗 | 1,714 | 1,387 | -327 |
| 強盗 | 376 | 204 | -172 |
| 傷害 | 689 | 478 | -211 |
| 殺人 | 37 | 24 | -13 |
| 恐喝 | 275 | 118 | -157 |
| 車両盗難 | 136 | 135 | -1 |
| 車両強盗 | 29 | 12 | -17 |
| 強姦 | 573 | 235 | -338 |
| 交通事故死 | 296 | 337 | +41 |
| 行方不明 | 28 | 43 | +15 |
| 誘拐 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 4,153 | 2,973 | -1,180 |



2024 年 1 月から 3 月における主要犯罪発生件数は、2023 年の同時期と比較して大幅に減少しました。2022 年 3 月に発効、現在も継続中である、「例外措置体制（憲法で保障される権利の一時的制限措置）」によりギャングの取締りを強化したことで、全ての犯罪が減少傾向となっています。しかし、当国は人口比では依然として日本よりもはるかに犯罪が多い国であるため、基本的な防犯対策を継続していただき、十分に注意するようにお願いいたします。また、前期比と比較して交通事故死の件数が増加しているため、車両運転時はスピードを抑え、車間間隔を空け、安全運転を心がけるようお願いいたします。

２．邦人被害事案

日本人の被害は報告されていません。

３．テロ・爆弾事件発生状況

日本人の被害は報告されていません。

４．誘拐・脅迫事件発生状況

日本人の被害は報告されていません。

５．日本企業の安全に関わる諸問題

特に報告はありません。

６．治安関連報道

（１）「例外措置体制（憲法で保障される権利の一時的制限措置）」の期間延長（１月１０日、２月１０日及び３月９日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

１月９日、２月９日及び３月８日の各月、当国国会は、例外措置体制（憲法で保障される権利の一時的制限措置（30 日間））の期間延長を承認した。

例外措置体制によって、これまで拘束されたギャングは７５，１６３人、車両７，０００台以上、携帯電話１８，０００台以上、銃器３，６００丁以上が押収された。ビジャトロ司法・公共治安大臣は、例外措置体制は、国内の全てのギャングが拘束されるまで継続するとしている。

（２）２０２３年の人口１０万人当たりの殺人発生件数（１月４日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

２０２３年の人口１０万人当たりの殺人発生件数は２．４人となった。これは、エルサルバドルが、ラテンアメリカで最も安全な国として認められていることを意味している。ビジャトロ司法・公共治安大臣は、「人口１０万人当たりの殺人発生件数は２．４人、１日平均殺人発生件数は０．４人である。これは、アメリカ大陸ではカナダに次いで２番目、ラテンアメリカでは１番低い国となる。」と述べた。また、同大臣は、２０２３年には殺人事件が１５４件発生し、そのうち解決件数は１４６件、解決率は９４．８パーセントであると述べた。

過去９年間の警察統計によると、エルサルバドルが世界で最も安全な国になりはじめたのは、ブケレ政権下が始まってからである。２０１５年の統計によれば、エルサルバドルの人口１０万人当たりの殺人発生件数は１０６．３人で、世界で最も危険な国であったが、ブケレ政権が実施した犯罪地域コントロール計画により、治安面で好結果が出始めた。最初の６か月で、２０１９年の人口１０万人当たりの殺人発生件数は３８人となり、２０２０年はさらに下がり、２１．２人、２０２１年は１８．１人、２０２２年は７．８人まで減少した。

（３）２０２３年のサンサルバドル市セントロ地区の治安情勢の大幅改善（１月８日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

２０２３年に、サンサルバドル市セントロ地区が国内外の観光客にとって評価が高い場所となった最も重要な理由は、治安環境が大幅に改善したことである。

サンサルバドル市役所警備部隊（CAM）のフランシスコ・ロペス局長は、「この１年間、この自治体では大きな犯罪はなく、国家文民警察のデータによると、セントロ地区での殺人事件は１件しか発生していない」と述べた。そして、この１件の殺人事件は、ギャングとは無関係であり、アルコール中毒の問題に起因した事件であった。

CAM のデータによると、２０２３年のサンサルバドル市セントロ地区で発生した犯罪行為と器物損壊は１５件、治安妨害行為は３３件、他者への嫌がらせと虐待は２５件、健康被害に関連するものは１３件、公共の場や禁煙スペースでの喫煙は６８８件であった。また、

盗難事件は２９件発生したが、犯罪地域コントロール計画及び例外措置体制が実施される前は、盗難事件は１日に２０件から２５件発生していた。これらの軽犯罪の多くは、ナイトクラブやアルコール販売店の付近で発生しているため、自治体の規制を遵守していない一部のバーやレストランを、一時的及び恒久的に閉鎖した。

実施された措置の一環として、サンサルバドル市は、CAMを通じて国家文民警察や軍隊などの治安機関と連携するための委員会を設置し、国家安全保障戦略への参加も強化した。さらに、首都のセントロ地区の監視を専門とする特別部隊も創設された。また、「シバル・セグロ計画」の開始により、公安との連携も強化され、自治体内のさまざまな通りにカメラ５００台が設置され、CAM 捜査官が監視している。

（４）チャラテナンゴ県での犯罪地域コントロール計画第５フェーズ「摘出」の実行（３月２６日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

３月２４日、ブケレ大統領は、チャラテナンゴ県北部４地区を対象に、３月１８日と２２日に発生した殺人事件２件に関与したギャングメンバーの拘束を目的とし、犯罪地域コントロール計画の第５フェーズ「摘出」の実行を命じた。

同作戦では、兵士５，０００人、警察１，０００人が動員され、４地区の出入口の封鎖、居住者の安全確保及び犯罪者の摘発が行われた。封鎖後２４時間経過しないうちに、当局は容疑者８人を拘束したが、そのうち２人は殺人に直接関与している。これらの容疑者は警察の捜査から身を隠していたが、ギャング組織１８スレーニョスのメンバーであることが

判明した。アリアサ・チカス国家文民警察長官は、容疑者と今回の犯罪を関連づける十分な証拠があると断言した。

　ブケレ大統領は、SNS 上で「数日前、我が国の北部で殺人事件が２件発生した。我々はすでに１８スレーニョスのギャングメンバー２名を拘束した。我々は僅かでも残ったギャングを根絶するまで止まらない。数週間後には、この地域は西半球で最も安全な国にある最も安全な場所になるだろう」と投稿した。

以上